

## 児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表: R7年 2月 日

無回答あり

事業所名 郡上市北部子ども発達支援センターたんぽぽ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	4	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回ではないが、相談室として使用している部屋をその都度、子どもに合わせてセッティングしたり、身体を動かすことがメインの子は個室を使用せずホールで活動する様にしている。</li> <li>・日によって利用時の数が多い時があるが、前後半の入れ替えや相談室等の利用により工夫をしている。</li> <li>・個室やホールを使い分けて使用している。</li> <li>・場合によって、個室同士つなげ広くしたりしている。</li> <li>・小学生の活動では、特によく動きたい子どもにとってはホールが手狭だと感じる。できる活動をできる範囲でやっていくようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用定員に合った指導室の確保に努める。</li> <li>・学年や人数に応じて活動内容や使用する部屋の工夫をしていく。</li> </ul>
	2	職員の配置数は適切であるか	5	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務関係についての担当してくださる方が、療育も行うことは、仕事量が多くなり負担が大きいと感じています。</li> <li>・事務担当者が別に必要だと思います。</li> <li>・今年度は療育専任の職員が増え、職員の役割が分担できた。</li> <li>・業務が偏りがないように事務役割を改善できると良い。</li> <li>・ベテラン指導員は事務的な業務が多く感じられ、本来の療育に携わる時間が限られている。初任者の療育指導向上を考えると現場で学べる時間をもう少し確保していただくと良いと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務的業務の簡素化を図る。</li> <li>・事務分掌を特定の人に固定化せず(偏らせず)、必要に応じて見直す。</li> <li>・誰もが事業全体を自分の仕事という意識を持つ。意識改革をする。</li> </ul>
	3	療育指導室は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	6	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シンプルでわかりやすい室内環境が整えられている。活動の流れや終わりの見通しが持ちやすいような視覚的構造化については整備が必要。部屋に動物マークをつけたり、靴や靴所持品の片付け場所にマークを貼っている。</li> <li>・指導に使用する玩具は用途別に管理、利用児の刺激にならないように環境に配慮している。</li> <li>・指導内容によって、個室を広げる事で、適切な活動が出来る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児の特性に配慮しながら環境を整えていく。</li> <li>・わかりやすい環境設定を継続していくために、定期的に点検を行う。</li> </ul>
	4	療育指導室は、清潔で心地よく過ごせる環境になっているか。また、子どもたちの活動に合わせた空間になっているか。	6	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玩具の消毒は引き続きおこなっている。</li> <li>・刺激物を減らし環境を整えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全や衛生面での対策は引き続き行なう。</li> </ul>
業務改善	5	必要に応じて子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか	6	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的に個別の部屋や場所を確保できるようにしている。</li> <li>・児の状態に合わせて、個別指導、ペア指導を調節している。</li> <li>・過敏さがある子どもに対しては、同じ時間帯に他児の指導を控える、人数を最小限にするなど配慮している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの状態や特性を見極めながらグループやペアで行うなどの工夫をしていく。</li> <li>・過敏さのある児に対しては現状のように指導時間に少人数、または単独で指導を行えるよう配慮する。</li> </ul>
	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に広く職員が参画しているか	6	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設内研究会や各行事(研修会)などでは、各自の目標設定、振り返りをおこなうことができた。振り返りアンケートの実施により全体での共有もできた。</li> <li>・目標を担当や他の職員で共有。振り返りを行い、改善を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務内容の軽減を図れるよう随時見直しをしていく。</li> </ul>
	7	保護者等向け評価表により保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	6	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年、保護者からの評価表を職員全員が目を通したり、検討事項について話し合いをしている。</li> <li>・保護者の意見を検証。その都度改善を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページ上にも評価結果を公表していく。</li> </ul>
	8	職員の意見等を把握する機会等を設けており、その内容を業務改善につなげているか	6	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月の責任者会に各担当が出席し、現状や課題等について意見を言うことができている。内容については各施設の職員会でも共有できている。</li> <li>・職員会でやっているが、全員が揃う時間があまりない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・責任者会・職員会等、意見を伝えられる場の確保をしていく。</li> </ul>
	9	事業所職員向け自己評価表及び保護者等向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を事業所の会報やホームページ等で公開しているか。	6	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価表の内容や改善の内容についての文書を保護者へ配布したり、施設内に掲示している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市のホームページでの公表を行う。</li> </ul>

適切な支援の提供	10	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	2	4	・職員OBなどに第三者評価を依頼するとよいのかも知れない	・第三者評価体制の整備を検討する。 ・発達支援センターの業務や療育について知識や経験のある人に依頼していく。
	11	職員の資質の向上を図るために研修の機会が確保されているか	6	0	・経験の少ない私にとっては、研修会が大変貴重な学びとなりました。そのための時間の確保もしていただけて、ありがたかったです。 ・施設内研修、施設外研修への参加をしている。最近ではZOOMでの研修も多いため、自己研鑽の機会になっている。年に一回は研修参加できるようになっている。 ・理学療法士相談や言語聴覚士相談も学ぶ場となっている。 ・職員の経験年数や職員構成等に応じて指導方法研究会はやり方を変化させても良いとは思う。療育の質の担保のために研修の機会をもっていきたいと思う	・経験や職階に応じた外部研修の参加を推進する。 ・研修内容は職員間で共有し資質向上に努める。 ・年3回程度、職員研修会を実施している。
	12	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析したうえで通所支援計画を作成しているか	5	0	・保護者の思いとアセスメントが一致しないことがあったり、課題の分析が難しく利用児の実態に合わないことがある。また、指導の見学をする機会がなかなかできず、児の様子がつまみれないことがある。	・児の状態像を的確に把握するように努め、関係者と連携して支援計画に反映させる。
	13	通所支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか	6	0	・相談支援専門員や療育の担当職員と共通理解しながら支援計画を作成できている。 ・担当療育者と児の様子共通理解し、計画を検討している。	・児の成長発達を鑑み、最善の支援方法や適切な関りができるように職員間で共通理解を図る。
	14	子どもの適応行動の状況を標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや日々の行動観察を含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認できているか	6	0	・日々の指導の振り返りで子どもの様子を書き込みながら確認できる様、気をつけているが、身体の使い方や言語、指先を使う活動等、チェック表を作成すると自分自身も、どういった活動を取り入れると良いか等、把握しやすくなると思うので作れたら良いと思う。 ・フォーマルなアセスメントに加え、療育担当職員による日々の行動観察(記録)を利用したアセスメントをおこなっている。 ・聞き取りのみが多く行動観察があまりできていない。 ・感覚過敏がある子どもには、感覚プロフィールを実施し、過敏さを理解するとともに保護者の子ども理解にも役立っている。	・発達検査を基本に必要な児については感覚プロフィール、TASPなどを用いた検査により把握する。
	15	通所支援計画には、児童発達支援及び放課後等デイサービスガイドラインの「児童発達支援、放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」「家族支援」「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	6	0	・今年度より見直されたガイドラインに沿って計画作成をおこなっている。 ・今年度より導入。全項目は導入したが、支援内容については今後、部分的な見直しが必要であると思われる。	・地域資源について把握しておく。 ・引き続き、関係機関との情報共有と相互理解による途切れのない支援に努める。
	16	通所支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか	6	0	・すべての職員が目を通し、療育や訪問支援時にも活かしている。 ・担当職員と支援計画作成時に相談。興味のあるようなことや取り組みやすい活動に考慮している。	・児のニーズに合わせた計画を作成する。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか	6	0	・主に身体を動かす様な活動を取り入れる中で話し合いながら内容を考えているが、自分自身に活動の引き出しが無いことで他の指導員の方に頼ってばかりだったり、内容を考えたり相談し合う時間がなかなか持てていないので、そういった時間を作っていけるようにしたい。 ・季節の活動や共有スペースでの活動をチームで立案することが多い。	・グループ活動では、指導員の役割分担を大切にいく。 ・指導員や児発管と指導内容について交流しながら進める。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	6	0	・季節に合わせた内容を取り入れるようにしたり、保護者の方の話を聞きながら家庭や園で興味を持ち始めたもの等も取り入れていける様、気をつけている。 ・季節を取り入れた活動や共有スペースの使い方を工夫している。 ・季節に合わせての活動を取り入れている。	・年齢や領域に合わせて、年間計画の見直しをする。 ・指導内容について、指導方法や関りについて共有する。
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる通所支援計画を作成し、支援が行われているか	6	0	・子どもの状況に応じて、個別、ペア、小集団活動をしたり、部分的に取り入れるなどの工夫をしている。 ・児の発達に合わせて支援内容を考慮している。 ・子どもの特性や集団の適応性に応じてペアや少集団活動を行っている。	・児のニーズに合わせた計画を作成し、療育を実施する。
20	支援開始前には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか	6	0	・指導の準備が遅くなってしまったり打ち合わせの時間が遅くなる様、気をつけていきたい。 ・開所前には必ず打ち合わせをおこない、申し送り事項等についても確認している。支援の内容や役割分担、環境等について各担当間で話し合い、支援をおこなっている。	・なるべく全職員で打ち合わせを行うことが望ましい。しかし、できない場合は、空き時間に伝える、メモなどの方法により共通理解しておく必要がある。	

関係機関や保護者との連携	21	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点を共有しているか	5	1	・勤務時間の都合で、他の方より先に帰らせてもらう為、全員の様子を把握することが難しいが、その都度、気になることや当日の様子などを話しながら他の職員の方の意見を聞く様、努めている。 ・限られた時間ではあるが、支援後に子どもの様子や支援の振り返り、次回の見直し等について共有できている。	・時間の確保や伝達手段を工夫しながら共有しておく必要がある。
	22	日々の支援に関して記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	6	0	・支援内容や視点が偏らないよう、項目別に記録を取り、検証・改善点についても記録に加えることを意識している。 ・指導終了後、記録を作成、次回の指導に役立てている。	・指導の記録は、療育後の30分の時間を使って記録と懇談を行うようにしていく。 ・支援について迷い等がある場合は、職員間や児発管と共有し、次回の指導に生かせるようにしていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、通所支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか	6	0	・相談支援のモニタリング月に合わせ、基本的には半年ごとにモニタリングをおこなっている。 ・担当と支援目標を評価、見直し、次の計画の作成を行っている。	・相談支援専門員と一緒にモニタリングを行うことで、対象児に関するより多くの情報を得られ、また、見直しの是非も判断しやすい。
	24	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っているか	6	0	・基本活動は2〜4つ程度を組み合わせさせておこなっている。	・子どもの状態に合わせ、言語・コミュニケーション、人間関係・社会性、認知・行動、健康・生活、運動・感覚から必要な活動を組み合わせながら行っている。
	25	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	6	0	・療育の担当者、児童発達管理責任者が担当者会議に出席している。	・児発管、療育担当者等が参画している。
	26	母子保健や子育て支援等の関係者や関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか	6	0	・互いに顔の見える関係性であり、日常的に連携がとりやすい体制が整えられている。	・母子保健では、健診、遊びの教室等で連携し、早期療育を促進する体制ができている。子育て支援関係部署である児童家庭課とは要支援家庭に関する支援について連携している。
	27	並行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。またその際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校との間で支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	6	0	・複数施設を利用のお子さんや、就園・就学前のお子さんに対し、発達支援会議や引き継ぎ会の実施をしたり、訪問等をしている。 ・年に2回支援会議を行い共通理解を行っている。 ・支援会議にて確認している	・引き続き、情報共有と相互理解による途切れのない支援に努める。
	28	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)母子保健や子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	6	0	・医療機関や支援学校と連携をしている。	・医療的ケア児コーディネーターを中心に、関係機関との連携や地域療育連携会の充実をめざす。
	29	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	4	0	・自分が担当させてもらっているお子さんの中に該当する方がいない為、分かりません。 ・必要に応じて連携がはかれるような体制が整えられている。 ・主治医とは難しいが、訪問看護師等の医療関係者とは連携の機会をもっている	・医療的ケア児コーディネーターを中心に、地域の医療機関との連携体制を機能させていく。
	30	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	6	0	・みやこ園(難聴児専門)への見学、研修会参加、会議の開催、訪問支援等を継続的に受けることができている。療育連携会議や発達相談などには発達障害者支援センターの職員を派遣依頼している。	・限られた時間ではあるが、現状に即した研修の機会を捉え(選択し)、参加していくようにする。
	31	自立支援協議会児童部会や地域の子ども・子育て支援会議等積極的に参加しているか	6	0	・自立支援協議会児童部会の事務局となっており、毎年テーマに沿った話し合いや取り組みをおこなっている。 ・いろんな機関が参加してくださることで、現在の課題がよくわかる。しかし、その課題を議論し、改善していくには難しさを感じる。	・一部の職員に限らず、職員の参加の機会を作れるとよい。
	32	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	6	0	・療育指導後には必ず保護者との懇談をおこない、子どもの様子や課題等について伝えたり、家庭の状況等を聞き取っている。今年度より家族支援がより重要視されたこともあり、各種相談を受けられた後には約30分の懇談をおこなっている。 ・モニタリング、支援会議に児の様子を共通理解したり、必要な場合は児の送迎時に相談を行っている。	・療育後の30分の時間を有効に使うべく懇談を行う。
	33	保護者の対応力向上を図る観点から保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っているか	3	3	・保護者の方にも指導に参加していただきながら子どもとの関わり方や声の掛け方等、伝えていける様動機はありますが、指導の経験も浅く、知識も十分では無いので、ペアレントトレーニングについて等、勉強していける様にしたい。 ・プログラム化された支援は実施していないが、必要に応じて希望が丘のプログラム等を紹介している。来年度からはペアレントトレーニングが近場で受けられるような体制を検討中である。	・令和7年度に美濃市と合同で研修を行う予定。
	34	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	6	0		・丁寧にわかりやすく説明するように努めていく。

保護者への説明責任等	35	通所支援計画の作成をする際には、子どもや保護者の意思尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか	6	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども本人や保護者の意向に加え、家族の意向を丁寧に確認するよう努めている。</li> <li>・保護者の思いを再優先をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもや保護者の意思を尊重しながら最善の支援方法や適切な関りができるように意向を確認していく。</li> </ul>
	36	児童発達支援、放課後等デイサービスガイドラインに基づき作成された「通所支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から通所支援計画の同意を得ているか	6	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画見直し時に保護者に説明、同意を得ている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援内容を具体的に説明し、同意を得られるように努める。</li> </ul>
	37	定期的に保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	6	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身の経験や考えだけでなく、他の職員の方の意見を聞きながら保護者の方の相談を聞く様、努力している。</li> <li>・希望された方に対しては、月1回程度の相談の場を設けている。緊急時や必要時に相談を受けることのできる体制も整えている。</li> <li>・保護者が必要時に、2名の職員で個別に相談できるように配慮している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談に迅速に対応し保護者の話を傾聴しながら共感的に支援ができるよう努める。</li> </ul>
	38	保護者会の活動の支援や保護者同士の連携を支援しているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか	4	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・センターを利用しているお子さんだけでなく、きょうだいの心のケアもとても大切だと感じるので、コロナ等の感染症等に十分配慮した上で、保護者の方同士が関われる場やきょうだい参加できる様な活動が出来ると良いと思う。(共働きの家庭が多い中なので、なかなか難しいかと思いますが)</li> <li>・今年度は保護者会についての意向調査をおこなったので、来年度からの活動に反映させていきたい。就学前(年中児)の保護者を対象に、教育委員会の職員を講師に迎え、特別支援教育のしくみについて学ぶ場を毎年設けている。</li> <li>・保護者の参加が少なく、保護者会が行えていない。</li> <li>・保護者会活動は休止中。活動できる保護者は限られると思う。きょうだい同士での交流は難しいが、療育に同行した場合には、きょうだいの受け入れをしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート結果を踏まえてできる活動を支援していく。</li> </ul>
	39	子どもや保護者からの相談や申し入れ等、対応の体制を整備するとともに子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	6	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談の希望について把握したり、緊急時や相談時に相談しやすい環境・関係性づくりに努めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心配や不安があった場合の相談について随時受け付けている旨を周知していく。</li> <li>・迅速に対応するよう努める。</li> </ul>
	40	定期的に通信等を発行し、活動概要や研修報告、行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	6	0		<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月の通信にて活動概要や研修報告、行事予定、連絡体制等を発信している。</li> <li>・緊急の連絡はすぐ一にて行っている。</li> </ul>

非常時等の対応	41	個人情報の取扱いに十分注意しているか	6	0	・今年度より玄関先の個人向け配布物BOXを廃止し、通所児の名前が不特定多数の目に触れないようにするなど意識をしている。	・注意しながら取り扱っているところではあるが、今一度個人情報の取り扱いについて確認する。
	42	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	5	1	・文字やイラスト、写真等を使用したり、手話や身振り手振りの使用を意識している。	・言語以外にも身振り手振り、写真、絵カード等も用いながらコミュニケーションのとり方を工夫していく。
	43	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を行っているか	4	2	・私自身勤めだしたのが、コロナ禍だった為、地域の方と交流する機会がありませんでした。 ・主催する研修会等では地域の関係機関を招待することができた。一般の地域住民を招待する行事等の実施については今後検討が必要である。	・地域を把握し、できる活動があれば一緒に行うことを検討していく。
	44	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに発生を想定した訓練を実施しているか	6	0	・感染症対策については、実際に利用しているお子さんが嘔吐した場合等を想定してすぐに動ける様、職員間で話し合ったり必要な道具を片付ける場所等、共通理解出来ると思う。 ・年間計画に沿った避難訓練の実施に努めている。緊急連絡先については保護者の勤務地の変更等も考えられるため、随時更新をおこなう必要がある。マニュアルについてはさらなる周知が必要である。	・職員会等でマニュアルを確認する。 ・通所開始時には保護者にも提示し、周知する。 ・非常時を想定した訓練も計画する。
	45	業務継続計画を策定するとともに非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	6	0	・地震や火災を想定した避難訓練を行っているが、避難場所についてや避難時に持っていく荷物等、もしもの時に備えてゆっくり話し合う場があると良いと思う。 ・避難に関する訓練をおこなう週間をつくり、通所児全員が参加することができている。今後、保護者への引き渡し訓練等の実施も検討していく必要がある。 ・業務継続計画は作成中。	・業務継続計画は、令和7年度から施行予定。 ・通所児全員が、各児に合った訓練を経験できるとよい。 ・自然災害に備えた訓練も計画していく。
	46	事前に服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか	6	0	・食物アレルギーについての調査も必ずおこなうようにしている。	・てんかん発作時の対応、アナフィラキシーショック等の対応について研修を受ける。
	47	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示所に基づく対応がされているか	5	1	・保護者に食物アレルギーについての確認を行い、注意事項を聞いた上で指導で使用する際には通所時に確認を取る様になっている。(保護者からの情報なので、医師本人からではないですが、) ・常時食品に触れるわけではないので医師の指示書を必要としていないが、食物アレルギーについての調査を必ず実施している。活動時に食品を扱う場合には、必ず保護者に事前に確認するようにしている。 ・利用相談時に保護者に確認をしている。また、指導に食べ物を使用する時は、保護者に確認をしている。	・指示書がある場合は適切に対応できるように備える。
	48	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分にされた中で支援が行われているか	6	0	・職員間や保護者への周知は十分でないと感じられる。	・安全計画は令和7年4月に保護者にも周知し、計画に沿って訓練等を行っていく。
	49	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有されているか	6	0	・毎月職員会時に必ず話し合い、職員間で共通理解して、今後に生かしていると思います。 ・毎月の職員会にて、ヒヤリハット事例を共有することができている。 ・職員会やその都度、共有改善に務めている。	・ヒヤリハット事例集の作成は令和7年度の課題としていく。 ・引き続き、職員会でヒヤリハットについて報告、確認、共有していく。
	50	子どもの安全確保に関して、家族等の連携が図れるよう安全計画に基づく取り組み内容について家族等へ周知しているか	5	1	・計画に対する周知は十分でないと思われるが、実践はできていると思われる。 ・令和7年度から周知できるとよい	・第3緊急連絡先の把握、個別の避難方法について職員間では共有している。 ・安全計画について令和7年4月に保護者に公表予定。
51	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	6	0	・ガイドラインに沿った研修機会を確保できている。支援ネット郡上さんの主催による研修にも職員が参加することができている。	・引き続きチェックリストを活用し、虐待防止の意識付けを行なう。 ・年1回、権利擁護についての研修会を開催する。	
52	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し、了解を得た上で通所支援計画に記載しているか	4	2	・自分が担当しているお子さんの中に身体拘束をせざる負えない様な方が今現在いない為、そういった確認をしていなかった。子どもや保護者の方にどの様にお話しすればよいか確認する場を設けていただきたいと思います。 ・身体拘束をおこなう必要のあるケースがこれまでなかったため、話し合いや説明等は今後の課題である。	・鍵をかけるなど、安全確保上やむを得ず身体拘束を行なうことについて、保護者に説明し了解を得る。 ・支援計画にも記載していく。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。